

2025 年度 傾斜的研究費（全学分）科研費チャレンジ 研究報告書

※本学 HP での公表を前提に記入してください。

【研究費区分】：②科研費チャレンジ（B）

【所属】：人文科学研究科

【氏名】：井上和哉

【氏名フリガナ】：イノウエカズヤ

【職】：准教授

【研究課題名】：

処理流暢性効果の統合的な検討

【研究実績の概要（400 字程度で記入。図，グラフ等の使用も可。）】

処理流暢性効果とは，処理しやすいものを好意的に知覚する現象である。代表的なものとして，単純接触効果（繰り返し接触したものを好ましく知覚する現象）や真実性効果（繰り返し接触したものを本当らしいと感じる現象）がある。これらの現象が同一のメカニズムによって生起するかどうかを検討するため，評価対象ではなく，背景（レイアウト）を反復提示する実験を行った。その結果，反復提示されたレイアウトに埋め込まれたものは，初めて見るレイアウトに埋め込まれたものよりも好意的に知覚されるが，より真実らしいと判断されることはなかった。つまり，レイアウトの反復は単純接触効果を生じさせるが，真実性効果を生じさせなかった。以上のことから，一口に処理流暢性効果と言っても，その基盤となるメカニズムは異なる可能性があり，各効果に特有な部分を今後検討する必要性が示された。

【本支援を用いた研究基盤整備の達成状況について】

臨時職員を雇用することにより，処理流暢性効果を統合的に検討するための実験刺激を多数作成することができた。

研究テーマの発展につながる興味深い現象を発見することができた。

【外部資金への応募状況】

科研費基盤研究 C（代表，2026 年度から）に採択された。

民間研究助成 3 件に採択された。

【研究分担額】

（研究代表者・分担者名,所属,金額（円））

井上和哉，人文科学研究科，1,000,000 円